

●ネコギギとは



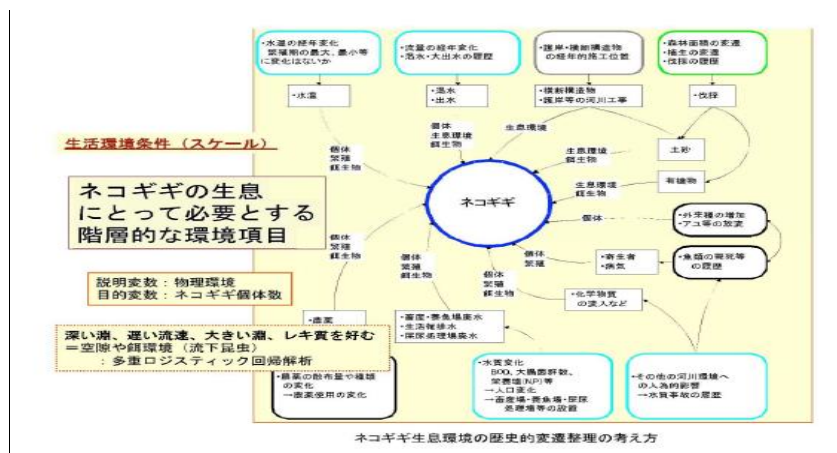
ネコギギ: ナマズ目ネコギギ科 (*Pseudobagrus ichikawai*)
 ・日本固有の純淡水魚
 ・国指定の天然記念物 (1977年に指定)
 ・近年個体数が激減している

分布: 伊勢湾と三河湾に注ぐ河川の中・上流域に分布 (岐阜・愛知・三重の3県)

成魚体長: 雄 約120 mm
 雌 約 90 mm

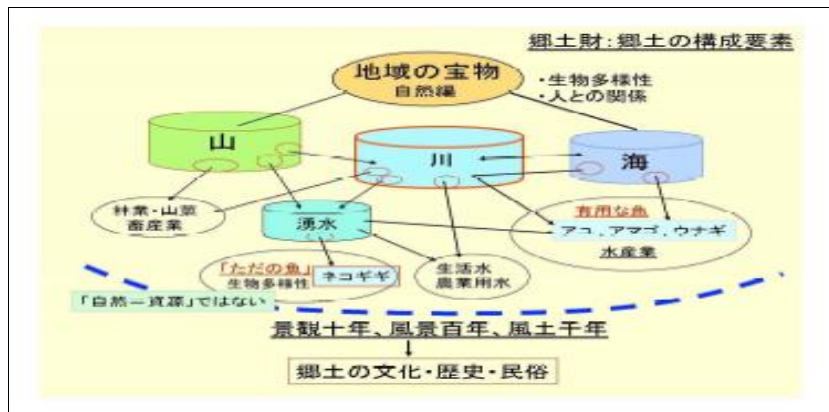
生息場: ・流れが緩やかな淵に生息
 ・体が隠れる横穴(礫間空隙)を繁殖場、隠れ場として生息

生活史: ・2、3年で成熟、寿命は数年
 ・5月～9月を中心に活動
 ・6月下旬～7月が繁殖期
 ・夜行性
 ・水生昆虫を餌とする



(3) 景観10年、風景100年、風土1000年、自然は郷土の構成要素である。

○自然は山・川・海の総合である。



◀鈴木輝明氏講演: 「二枚貝類の水質浄化機能と豊川河口域における大量発生時の仕組み」▶

※名城大学大学院総合学術研究科特任教授

○ダム建設の影響は、上流から下流、海まで調査しなければならない。設楽ダム建設による三河湾への影響も考慮するべきである。

3-4 ダムの機能維持：堆砂容量 600 万 m^3

《角哲也氏講演：「ダムと土砂環境について」》

※京都大学防災研究所水資源環境研究センター長 教授

(1) なぜ、ダムに土砂が貯まるのか。

何故、ダムに土砂が貯まるのか？

- ダムは河川をせき止めて設置するので、上流から流れてくる砂や石などが堆積する宿命にある。
- 土砂には、粘土やシルトといった非常に細かいもの（ウォッシュロード）から、砂や石のような比較的粗く大きいもの（浮遊砂や掃流砂）までバリエーションがある。

何故、ダムに土砂が貯まるのか？

- これらが湖に流れ込むと、水深が深くなるに従って流速が落ち、粗いものから順に堆積（分級作用）する。
- こうして堆積する土砂は、ダム湖の中に「デルタ」を形成し、時間とともに少しずつ下流に前進する。
- 細かい土砂の一部は洪水時にそのままダムから放流される。どれだけ出るかは、ダムの大きさと洪水の大きさ（湖でどれだけ流速が落ちるか）による（流速が落ちなければ、出やすい）。

土質区分	粘土・シルト主体	砂主体	礫・砂主体
平均粒径	0.075~0.075	0.075~0.425	0.425~4.75
最大粒径	0.075	4.75	4.75
粒径分布	$F_{0.075} > 85\%$	$F_{0.075} < 85\%$	$F_{0.075} < 20\%$
粒径集中度	$w_{0.075} > 100\%$	$w_{0.075} < 100\%$	$w_{0.075} < 10\%$
密度・孔隙比	小	大	大
堆積速度	10^{-4} 程度	10^{-3} 程度	10^{-2} 程度
有機質・腐植	大	中	小

建設利用
 農業利用
 産業利用
 環境利用

土壌改良材、粘土・肥料等
 コンクリート骨材、敷土材、舗装
 河川河床材、護岸材、ダム建設材料

